

第 40 回宇宙理学委員会議事録

日時：平成 25 年 6 月 12 日(水)13:00~20:30

場所：宇宙科学研究所 A 棟 2 階大会議室

出席委員：牧島委員長、上野幹事、海老沢幹事、安東委員、小野委員、金田委員、河合委員、草野委員、國中委員、佐々木委員、塩谷委員、芝井委員、高橋委員、田中委員、中川委員、永原委員、中村（栄）委員、並木委員、野崎委員、原委員、藤井委員、藤本委員、松原委員、満田委員、山岸委員、山田委員、渡邊委員、常田所長、稲谷副所長

欠席委員：大村委員、國枝委員、寺澤委員、中村（正）委員、早川委員、山本（智）委員

TV 会議出席者：なし

陪席者：紀伊恒男、羽生宏人、斎藤義文、福田盛介、山崎敦、高柳昌弘

科学推進部他：須田執行役、石井科学推進部長、早川大学共同利用課長、廣瀬、奈良岡、田中、滝（以上科学推進部）、吉原、東原（以上宇宙科学プログラムオフィス）

第 6 期委員自己紹介

委員自己紹介のあと、常田所長から、新執行部体制(満田研究総主幹、稲谷副所長・プログラムディレクタ、石井科学推進部長)が紹介された。

第 6 期委員長、幹事の選出

互選により、牧島一夫委員が委員長に選出された。委員長の指名により、海老沢委員、早川委員、上野委員が幹事に指名された。

所長挨拶

常田所長から挨拶があった。

1 諸報告

(1) 宇宙理学委員会とは？

海老沢幹事から資料 3-1 に基づいて、宇宙理学委員会の概要が説明された。

(2) 宇宙科学を取り巻く周辺状況

石井科学推進部長から、資料 3-2-1 に従って報告された。

(3) 各委員会報告

- ・小型科学衛星専門委員会報告

後の議題「今後の小型科学衛星計画の進め方について」の中で報告された。

- ・宇宙探査委員会報告

資料配布のみ。

(4) 国際調整報告

資料配付のみ。

(5) はやぶさ 2 サイエンスチーム報告

資料配付のみ。

(6) はやぶさサンプル分析国際 AO 第二回選定結果報告

資料配付のみ。

(7) SMILES 外部評価委員会報告

次回に持ち越し。

(8) イプシロンロケット報告

資料 3-8 に基づき、宇宙飛行工学研究系の羽生助教より報告された。

(9) SPRINT-A 報告

太陽系科学研究系の山崎助教から、資料 3-9 に基づいて報告された。

2 審議

(1) 宇宙理学班員登録申請について

三名の登録申請が認められた。

(2) H25年度戦略的開発研究費審査

満田戦略的開発研究費審査委員長より、資料 4-2 に基づいて報告された。昨年度までの小委員会が、今年度の最初の評価を担当した。最終的な評価結果として配分額を定め、留保分は 1,000 万。提案通り戦略予算の配分が認められた。

(3) H25年度搭載機器基礎開発実験経費審査

藤本委員長から報告された。提案通り基礎開発実験経費予算配分が認められた。

(4) 各委員選出

1) 戦略的開発研究経費審査委員会

2) 搭載機器基礎開発経費審査委員会

それぞれ、前期幹事団から、今期の委員候補が提案された。新委員候補は、満田(委員長)、早川、上野、中村(栄)、山本、渡邊、野崎、理学委員長(オブザーバ)。搭載機器委員候補は、7 名中、3 名の交替。新委員候補は、海老沢(委員長)、藤本、中川、塩谷、原、河合、永原。なるべく ISAS 外の委員が多いほうが良いという意見が出され、一人ずつ外部からの委員を増やすという条件付きで、両委員会の新委員が認められた。

(5) キュレーション専門委員会について

藤本委員から資料に基づいて発表があった。キュレーション専門委員会を理学委員会の下に作ることが認められた。担当幹事は早川幹事とする。

(6) あけぼの運用延長審査

海老沢あけぼの運用延長審査委員長から、資料に基づいて報告された。2014 年度から 3 年間の運用延長が認められた。

(7) ひので運用延長審査

海老沢ひので運用延長審査委員長から説明があった。運用延長を認めるに当たって、いくつかプロジェクトへ課題を出している。プロジェクトの回答を待って、2014 年度から 3 年間のひのでの運用延長を認める。

(8) 小規模プロジェクト／国際共同ミッション推進研究の進め方について

満田研究総主幹から、資料に基づいて報告があった。基本的に AO を出すことが認められたが、細部を詰めた上で、理学委員会がどのような責任を負うかということをはっきりと、9 月の委員会のときにきちんと報告して欲しい。

(9) 国際共同支援経費「飛翔体による宇宙科学観測支援経費」(理学枠)について

共同利用係の奈良岡氏から資料に基づいて説明があった。所が出す国際共同支援経費との性格の違いは何かを明らかにする。それから、随時受け付けが適切かどうか、検討する。それらについて幹事団が協議して、公募案を検討する。それがクリアされた後に AO を出す。

(10) JUICE WG について

藤本委員より資料 4-10-1 に基づいて説明があった。WG の切り替えを基本的に認めるが、新しいWG がどうなるかということは今日、聞いた範囲ではまだまだ見えないことが多いし、不安要因も大きい。よって、9月の理学委員会で説明して頂く。

(11) WG の整理について

牧島委員長から説明があった。現在、WG がたくさん存在するが、アクティブなものもあればそうでないものもある。WG の整理について、9月までに幹事団で方向性を出して、9月の理学委員会に諮る。

(12) 今後の小型科学衛星計画の進め方について

満田 SE 室長と上野 PO 室長から、資料 4-12-1 に基づいて説明があった。今後の小型科学衛星計画の進め方について、討議が行われた。小型科学衛星専門委員会は終了し、今までの専門委員会の努力、アウトプット、成果を引き継ぐ形で、今後は理学委員会が直接ハンドルをする。担当幹事を上野委員とする。

(13) 理学委員会の将来構想について

ロードマップの議論を進めるために、理工学委員会が共同で TF を設立することが認められた。理学委員会からのメンバーは、牧島、渡邊、野崎。宇宙研執行部には、オブザーバとして入って頂く。

以上